

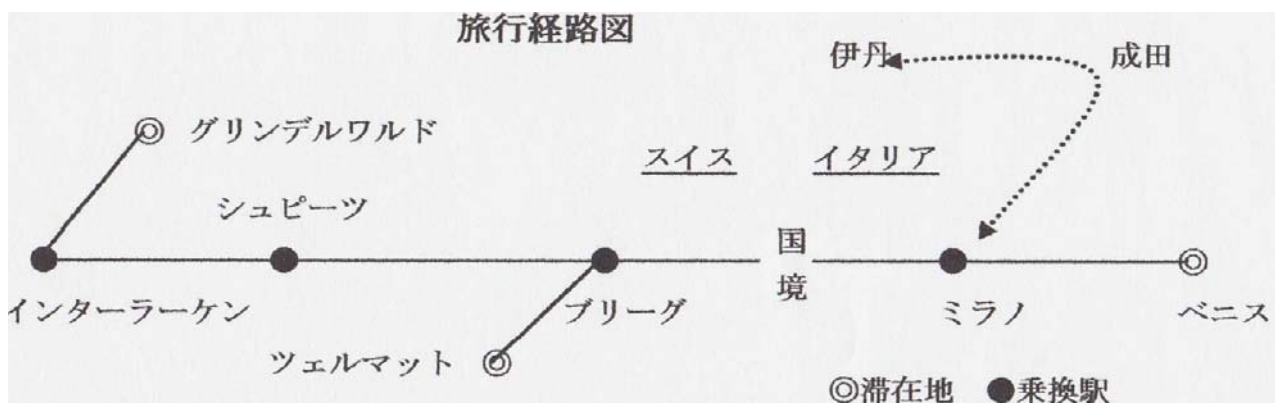
## スイス個人旅行の勧め

新谷勇人（松高11期）

（はじめに）

今年（7年）9月22日から10月2日までの11日間、友人のS君とスイスのハイキングに行きました。スイスはこれで3回目ですが、これまでと異なり今度は初めて自分で企画し、ホテルをとり、切符を買い、スイスの山道をハイキングするという個人旅行でありました。はじめは私ら本人も家族も不安が一杯の出発でありましたが、結果は全くのノープロブレムで、十二分にハイキングを楽しむことが出来ました。

一度の成功で気をよくして、皆様にスイス個人旅行を指南しようというわけですから、能天気で、行け行けどんどの旅行記ですが、ご笑読下さい。



（文明国を旅行する）

スイスは日本より、イタリアは日本に近い、文明国です。列車だってホテルだって、日本と大差はありません。違うところは言葉が通じないこと位です。それさえカバーすれば、格別の不安がなく旅行できて当然です。そのカバーの方法ですが、ネット社会となった結果、以前とは比較にならないほど便利に成りました。出発前にホテルを予約するのも信じられないほど簡単です。列車の時刻を調べて、切符を確実に買うことも、乗換を調べるのも実に簡単になりました。その結果をプリントして携行し、駅の窓口やホテルのフロントに見せれば、全てOKなのです。文明国を旅行する限りでは殆ど心配はない、というのが今回得た自信です。

（日本からスイスに入る）

スイスにはチューリッヒからで入るのが通常のようなのですが、今回はイタリアのミラノから入ることにしました。日本からの便数が多いし、旅行の前後を食べ物が美味しいイタリアで過ごすのもよい考えだと思ったからです。それに国際列車って一度乗ってみたかったので・・

(ホテルの予約は非常に簡単でした)

グーグルやヤフーが開ける人なら、海外のホテルの予約が簡単にできることに驚くでしょう。小生も驚きました。まず郵船トラベルという旅行社がやっている「海外ホテルのお手配」という頁にアクセスします。郵船トラベル□海外ホテル：検索です)。そして地域(ヨーロッパ)・国(スイス)・都市(ツェルマット)・滞在日(○月△日)の順で予定を入れると、たちどころに予約可能な多数のホテルが、日本円の料金で表示されます。ホテル毎に星数やどんなホテルかの説明と部屋等の写真があり、更に所在地の説明や地図も示されます。それを見て気に入ったホテルがあれば、ク

レジットカード番号をインプットすれば2日くらいで予約の成否を知らせてきます。到着の4日前までキャンセル可能ですから、複数のホテルにオファーを出し、一番よいホテル



以外をキャンセルすればよいのです。リストの中には「即答可」のホテルがあります。その場合はカード番号を入れた段階で直ちに日本円での予約が成立します。予約が成立すれば自分のプリンターでバウチャー(予約確認書兼支払証明書)を印刷し、これをホテルのフロントに出せば「ハロー、ウエルカム」といって部屋に案内してくれるのです。国際電話やFAXをする必要もありません。バウチャーには所在地が地図付きで書いてありますから、間違いなくホテルに着けます。不安があればグーグルマップで所在地を検索すれば大丈夫です。是非下のHPを開けて試してみてください。(写真説明：ツェルマットでは時ならぬ雪で、一面銀世界となりました。標高3,100メートルのゴルナグラートから1,500メートルのツェルマット村に歩いて降りる途次、足跡のない雪原を、以前来

たときの記憶を辿って逆さまッターホルンの名所リッフェルゼーを探して記念撮影)

(海外ホテルのお手配の頁：<http://www.ytk.co.jp/private/hotel.html>)。

(列車での移動も簡単至極です)

まずスイスに行くなら、「スイスパス」という観光客用の乗り放題切符を日本で買って出発して下さい。これがあればスイス国鉄とポストバスが乗り放題です。スイスパスがあれば基本的に切符を買う必要がありません。バスに乗るときも、目的地までの料金など気にする必要はなく、乗るバスさえ分かればOKです。(ポストバスは、郵便バスとでも訳すのでしょうか、停留所の多くが郵便局前です、これが網の目のように走っており、結構便利)



スイスパスの料金は2等車：有効8日間の場合で1名34,800円です。私はS君と一緒に行動するというセーバーパスでしたので、更に安く29,700円でした。スイスもイタリアも列車は1等の必要はなく2等で充分です。(写真説明：ユングフラオヨッホ：3,450メートルから、メンヒスヒュッテ：3,650メートルへの氷河上の散歩風景、往復時間は3時間位)

(イタリア国内の切符は？指定券は？乗り換えは？)

スイスパスは乗り放題ですが、スイス以外の、例えば今回のようにイタリアのミラノからスイスに入る場合は、イタリア国内の切符を買わねばなりません。また指定券が必要な場合があれば、これも駅で買わねばなりません。更に日本からの旅行者には、どの列車に何時乗るのか、何処で乗り換えるのか、時刻表や経路を知るのも容易ではありません。しかしこれらは以下の方法で全部クリアできます。

それはスイス国鉄の下記URLにアクセスする方法です。この頁では出発地(from) 目的地(to) 経由地(via)、移動日時を入れると、たちどころに目的地までの数本の案を、予約の要否、乗換駅やそのホーム番号にいたるまで出してく

れます。勿論英語ですが、簡単な単語のみですから困りません。これをプリントして携行し、駅の窓口で出せば、言葉など不要で切符が買えます。from と to のどちらかがスイスなら、他方がイタリアでも対応しています。今回は日本からミラノ空港に着いた夜ミラノ中央駅でプリントを見せてグリンデルワルドまでの翌日の切符を買ってからホテルに向かい、またグリンデルワルドからツェルマットへの移動の途中に、乗換のブリーグ駅でプリントを見せて、ミラノ経由ベニスまでの予約切符を買ってから、ツェルマットに向かいました。また経路図の●印駅で合計8回の乗り換えも全く問題ありませんでした。(写真説明) シュバルツゼーからヘルンリ小屋を目指して登りましたが、途中でギブアップ。登山道そのものは難しくなかったのですが、朝早かったのと雪のために誰もいないし、風も吹いたので、心細くなって途中で降りた次第。



(スイス国鉄の HP : <http://www.sbb.ch/en/>)

これを書くために、このスイス国鉄の頁で、パリからベルリンというスイスを通らない経路ではどんな答えを出すか試してみました。なんとちゃんと回答を出してくれました。全部で7通りのプランがあります。そのうちの一つはパリを朝6時43分に出発し、途中ザールブリュッケン、マンハイムで乗り換えて15時24分にベルリン中央駅に到着し、所要は8時間41分、パリとザールブリュッケン間は指定券が必要なのだそうです。つまりこれを使えばヨーロッパ全体の鉄道の旅も身近なものになる、そんな気がしました。後日もう一度8年元日の同ルートを検索したら、全てスイス経由で17時間程度のプランになっていました。変わった理由は不明ですが、やはりそれぞれの国の国鉄で調べた方が良さそうです。

(スイスのハイキングってどんな感じ?)

スイスのハイキングコースは、タラタラの下り坂主体の登山道です。今回ツェ

ルマットでは時ならぬ雪でしたが、高度3, 100メートルのゴルナグラードやシュバルツゼーなど3千メートル以上まで登山電車やゴンドラで上がれます。そこからホテルのある標高1, 500メートルのツェルマット村までおよそ5時間かけて下るのです。雪は予想外でしたが、とにかく2・3人が並んで歩けるほど広いタラタラ道を下ってゆくのです。見上げればマッターホルン、見下ろすと深い谷の底に牧場が見える、そんな絶景の中のハイキングです。疲れて嫌になったら、登山電車やゴンドラがありますので、途中駅で乗り込めばよいのです。足に自信がなくてもトライできる点が日本の山とは異なります。

(ガイドは必要ないか)

都市の旅行ならともかく、山を歩くのだから道に迷ったりはしないか、と心配になります。しかし「地球の歩き方」に載っている代表的なハイキングコースならガイドは要りません、誰もガイド無しでハイキングしています。スイスは世界中から観光客の来る国です。道標はしっかりしています。道は充分広く、ガイド無しで楽しいハイキングが出来ます。

(昼食は、お弁当は?)

スイス或いはヨーロッパにはコンビニはないようです。ですから弁当は探さないとありません。ホテルで頼むのはどうか? サンドイッチの弁当を作ってくれるホテルもあるかもしれませんが、日本語案内所の職員も「自分のホテルで聞いてみて」と自信なさそうでした。しかしあちこちに茶店的なレストランがあるので、何とか食べることは出来そうです。しかし私のお勧めは、日本から魔法瓶とインスタントラーメンを持ち込んで、それを弁当代わりにすることです。腹の納まりもよいし、景色のよいところでゆっくりと食べることが出来ます。今回はバス乗り場のベンチや雪原でもインスタントのお世話になりました。

(部屋で飯を炊く貧しい日本人)

今回はホテルに9泊しました。当然夕食は食べに出ているとお思いでしょう。実際スパゲッティなどのイタリアンを3回、中華を2回、計5夕食をレストランで食べました。後の4食は実は部屋で米を炊いて食べました。私が持っているサンヨーの海外旅行用クッカーは米を1合炊けますので、二人で食べるのに丁度よいのです。都合4回(=4合)炊きました。風呂で汗を流した後、ビールやワインを飲みつつ、駅前のコープで買った野菜やハムで作ったおかずで米の飯を食う

のは実にリラックス出来ます。ツェルマットの最後の晩には、最近日本でも少なくなつた「玉子掛け飯」にしました。本音は円安のため欧米人に伍してレストランで食うには財布が貧しすぎた、という面もありましたが・・・終わり